

令和7年12月24日（水曜日）

高校生と姫路市議会との座談会（文教・子育て）

議会会議室

出席議員

常盤真功、妻鹿幸二、宮下和也、阿山正人、  
宮本吉秀、東影 昭、下林崇史、牧野圭輔、  
谷川真由美

出席高校生

姫路女学院高等学校 4人、  
姫路東洋大学附属姫路高等学校 2人

開会 9時57分

委員長挨拶 9時57分

出席者紹介 10時00分

意見交換 10時04分

○ テーマ

・少子化対策

「出生率が上向かない要因とは」

（委員長）

高校生から資料に基づき、本テーマに関する提案を  
行いたいとの申出を受けているので、説明を受けるこ  
ととする。

（高校生）

【姫路女学院高等学校が資料に基づき説明】

【姫路東洋大学附属姫路高等学校が説明】

（委員長）

両校から現状分析と高校生目線で考えるよりよい  
姫路へ向けての提案をいただけたと思う。提案内容に  
ついて、議員から質問や意見を受けたいと思う。我々  
の感覚と、若い世代の感覚は違うところがあると思う  
ので、積極的に質問してもらいたい。

（議員）

私はブライダル事業を営んでおり、これまで600  
組ほど担当した。最近、子どもをつくらないという  
カップルも結構増えており大変ショックを受けてい  
る。両校の皆さんは、結婚についてどのようなイメ  
ージを持たれているのか。

（高校生）

私の学校で取ったアンケートでは20%が結婚した  
くないとの答えだった。私自身は、姫路市か家の近く  
の式場で家族みんな集めて結婚式を挙げたいと思う。  
同級生にも同じ気持ちになってほしいと思う。

（高校生）

私も結婚できたらいいなと思っている。また、子ど  
もが私と同じ趣味を持ってくれたら人生が楽しくな  
るのではないかと考えているので、子どもを持つこと  
に対して、すごくいいイメージを持っている。

（議員）

どんな趣味か。

（高校生）

野球観戦である。

（高校生）

両親が同級生の親と比べると年配であるため、私は  
20代で結婚して、子どもも欲しいと思っている。た  
だし、若いうちに結婚することに対して、金銭面の不  
安があるので、そのサポートをうまくしてもらえるの  
であれば、将来姫路市で住みたいと思っている。

（高校生）

私も結婚して、子どもが欲しい。一人っ子だったの  
で、兄弟で何かをするというイメージが湧かないが、  
これまで両親は盛大にファミリーイベントをしてく  
れた。私もしてあげたいと思うが、子ども1人だけ  
では、盛り上げられる自信がないので、助成制度があ  
ればうれしい。

（委員長）

結婚したいとの意見が多いので、結婚に対して前向  
きな気持ちとなるような環境をつくっていかねばな  
らなと思う。

（議員）

婚活にプレッシャーや怖さを感じることもあると  
思うが、姫路市でも恋活イベントを実施している。対  
象は20歳以上となるが、このようなイベントをどう  
思うか。

（高校生）

大変すてきだと思う。見た目がいいので行ってみた  
い。

（委員長）

ほかに意見はないか。

（議員）

少子化は本当に課題が多く、姫路市だけでなく日本  
全体の大きな課題である。皆さんの意見や発表を聞  
いて、希望が持てると思った。

姫路市は今年3月に「ひめじこども・若者みらいプ

ラン」を公表している。子育てや出産などの課題や支援策などがまとめられているほか、姫路市の15歳から39歳までを対象としたアンケート調査結果も掲載されている。

同調査で明らかになった「姫路市が取り組むべき子ども・若者への支援」に対して意見が多かったのは、「生活が苦しい子どもや家庭を支援すること」、「若者が就職したり、働き続けられるように取り組むこと」、「若者が結婚できるように支援すること」などであるが、「学校の教育を充実する」や「子どもや若者がほっとできる居場所を充実する」との意見も多い。

なお、「理想とする数の子どもを持ってそうにないと思う理由」という質問に対しては、「子育てや教育にはお金がかかりすぎるから」ということが一番多い意見である。「姫路市に奨学金の支援制度をつくってほしい」とか「子どもが1人産まれるたびに補助が欲しい」などの意見もあったが、兵庫県では地元企業に就職すれば、奨学金の返済を支援する制度を設けていたと思う。

皆さんの発表や意見を聞くと、姫路市としても支援制度が必要であると思う。私たちも皆さんの意見を参考にしながら、行政へ働きかけていく必要があると感じた。

(議員)

姫路市は、今年度から卵子凍結に補助を出しているが、皆さんは利用したいと思うか。

(高校生)

私は卵子凍結により産まれてきた。確かな金額までは分からないが、卵子凍結に1回7万円かかり、1年凍結したときに、これ以上継続するならば月15万円必要と言われたらしい。そのときは、あまり支援がなく、貯金を切り崩したとも聞いた。不妊治療を行う家庭は子どもが欲しいという思いが強いので、産まれてきた子どもを大切に育てようという気持ちがあると思う。そのような家庭を対象とした不妊治療に対する支援制度はすごく賛成である。

(議員)

無事に産まれてよかったと思う。女性の方はどう思うか。

(高校生)

子どもが欲しいので、若いうちに出産したいと思う

が、仕事もしたいと思っている。35歳以上になると出産しにくくなると聞いているが、卵子凍結があれば、仕事もできるし、年齢が高くなったとしても、赤ちゃんを産める可能性が高くなると思う。費用のかかる卵子凍結に対して助成する制度には賛成である。

(委員長)

ほかに意見はないか。

(議員)

子育て支援もいろいろあるが、明石市が進んでいる。同市では、子ども医療費が無償、中学生では給食費が無償、赤ちゃんが産まれたら、おむつが1年間配達され、おむつの配達員にも相談ができる。

全国的に見ても、同市は子育て支援が充実しており、実際に若い人の人口も増えている。

姫路市は子育てしやすい環境を構築するため、保育士の待遇改善を行い、確保に努めている。

姫路市に戻って、生活や仕事をしたいと思えるような子育て支援策について、意見はないか。

(高校生)

保育士は女性が多いので、女性目線で福利厚生を改善してほしい。イクメンという言葉も生まれているが、出産・子育ては女性が行うものという固定観念から脱却し、新たな価値観が生まれていけば何かが変わるかもしれないと感じている。

(議員)

男性の育休取得率も高くなっているが、世界的に見て日本の男性は育児や家事に参加する平均時間が圧倒的に短い。特に労働時間や働き方改革が大事だと思っている。

(委員長)

ほかに意見はあるか。

(議員)

企業が子育て環境の充実を社会全体の課題として捉え、取り組んでいくということが必要だと思う。

社会システム的に医療も年金も子どもたちが支えてくれる。子育てに経済的負担がかかるのであれば、経常的負担を極力少なくすることが必要だ。例えば、教育費や保育施設を無償化し、その負担を子どもを育てていない方に負担してもらおうという考え方もある。

(議員)

独身税ということか。

(議員)

そうではない。子どもがいない人や育てていない人も、自分たちの将来負担を子どもたちが担ってくれるわけであるため、その分を負担してもらおうという考えも必要だと思う。

(委員長)

今の意見に対して皆さんから意見はないか。

(高校生)

奨学金の免除や肩代わりなどは、子どもを持っていない人にとっては恩恵を受けにくいと思う。

(議員)

皆さんの負担を軽減するために、将来皆さんから恩恵を受ける、子どもを育てていない人から税として少し負担してもらい、子育てしている人への助成に充てるというのは一案である

また、奨学金についても、なくて済むように教育の無償化ができればいいと思うがどうか。

(高校生)

賛成である。

(議員)

例えば、子どもができないならばどうするのか、また、子どもが欲しくても産めない人もいる。そのため、養子を迎えるなど、いろいろな形で子育てに参加してもらえるような制度も考えて、社会システム化していくことが必要である。

(委員長)

子どもを持つ家庭だけの負担ではなく、地域や社会全体で費用を捻出しながら子育て家庭の負担を軽減させていくということか。

(議員)

仕事と家庭の両立ができるよう保育施設などの環境面の充実も含め考えている。

(委員長)

給食や学校の完全無償化なども何かしらの税金を財源としている。皆さんもこれから結婚され、子どもを持たれると思う。自分だけの負担ではなく、例えば、姫路市に住むならば姫路市全体で子どもを育ていくほうがいいと思うか。

(議員)

結婚して子どもをつくりたいという人はそうだと思う。

(議員)

いろいろな在り方があると思うが、どこから財源を捻出するのか考えないといけない。経済が安定しないことには、子育ても仕事もできない。子どもは将来社会全体を支えていくため、子どもを育てていくという家庭と、子どもを持たなかった家庭との負担の公平性を図るという観点は必要だと思う。

(委員長)

何とか少子化に歯止めをかけないといけない。私たちの世代の考え方を、これからの社会を担っていく皆さんにも共感できる内容であれば、本当に有り難いと考えている。

共感できるものであれば、私たちも積極的に進めていくことができるので、何かあれば意見を寄せてほしいと思う。ほかに意見はあるか。

(議員)

将来的に、姫路市で住みたいと思うか。それとも他市へ移住したいと思うか。考えを聞かせてほしい。

(高校生)

私は姫路市に残りたいと思っている。年少の妹の成長を見守りたいということもあるが、将来の夢である獣医になることで、ペット関係の仕事をしている両親の仕事を少しでも手伝いたいと思う。

(高校生)

私も姫路市に残りたいと思っている。両親と一緒に住んだほうがメリットもあるし、安心もできるのが理由だ。将来、介護士になり、地元で働きたいと考えている。

(高校生)

私は専門学校に進学し、卒業までは姫路市で暮らしたいと思っているが、将来はパティシエになり、家族と一緒に都市部へ移住したいと思っている。

(高校生)

妹が3人いるので、成長に伴い部屋の問題も出てくる。視野を広げ、より多くの経験を積むため、大学卒業までに都市部へ出たいと思っている。

(高校生)

私はずっと姫路市で住みたいと思っている。親戚が姫路市に住んでいるため、大学も家から通えるところに行きたいと考えている。地元がすごく好きで、自分に合っているなので、都市部に移住したくない。

(高校生)

私も姫路市で住み続けたいと思う。高校生らしくないかもしれないが、代々受け継いできた家や土地を受け継ぎたいと考えている。

(議員)

姫路市に住んでもらうことが、人口減少や少子化対策になってくるが、まずは自分の夢に向かって進んでもらいたいと思う。ただし、姫路市を見限ることなく、故郷を愛する心はずっと持ってほしいと思う。そのために我々は様々な施策を展開し、皆で連携を強化しながらアピールしていきたい。

(議員)

姫路女学院高等学校の発表資料で、具体的な対策案として知名度と定着性を兼ね備えた企業を誘致するとあった。先ほど、財源の話が出ていたが、姫路市では人を呼び込むため企業誘致に力を入れている。今の若い方からすれば、そのような企業に対して、どのような魅力を感じて就職したいと思えるのか。

(高校生)

テレビではメジャーな企業ばかり映っている。姫路にもいい企業はあるが、その魅力を知らない人がたくさんいると思う。企業の魅力について発信してもらう機会があればうれしい。

(高校生)

給料の高い企業がよい。それと休みが取れて福利厚生が充実した企業があれば就職したい。

(議員)

先ほどの婚活の話で趣味を共有できる人がいればいいという意見があった。姫路市には、ヴィクトリーナ姫路やASハリマアルビオンといったプロスポーツチームがある。議員ではなく、若い方が盛り上げていくため、高校生が応援企画などを練ってみてはどうか。

(高校生)

好きな人に声をかければ結構集まると思うので、できればいいなと思う。

(議員)

ぜひ企画してもらいたい。

(委員長)

皆さんが社会に出るまでに、最も経済的負担が大きいのと思うものは何か。

(高校生)

小・中学校は公立校へ行ったが、学校によって制服が変わる。小・中・高校で制服は変わるが、高校に入学する際、制服の値段が高いと思った。制服購入費の補助があればうれしい。

(高校生)

親に話を聞く限りで、一番大変だと思ったのは所得制限である。医療費の自己の負担に対する所得制限をなくしてほしいと思う。

(高校生)

私が高校2年生になるタイミングで、妹2人の小学校と中学校の入学に重なったため、入学金の負担が大きかったと思う。制服や体操服のほか体育館シューズなどの購入に対し、入学時に少しでも補助があれば楽になると思う。

(高校生)

子どもは授かりものなので、偶然が重なる可能性がある。支援してほしい。

(高校生)

大学授業料は子どもが3人いたら無償だが、一番年長の子が卒業し、社会人になれば免除されない。社会人になると自分自身でできることが増えるので、補助対象にならないことは理解できるが、見直してほしい。

(委員長)

高校生の皆さんから経済的負担に対する要望を聞いたが、姫路市が考えるべき方向性も踏まえ、意見はないか。

(議員)

来年から授業料が無償化になると思うので、経済的負担は軽減すると思う。

(議員)

所得制限については、どこで線を引くかという議論が必要だと思う。困っているところへ、いかにして、必要な補助を出すかという議論があるため、所得制限の話は、そのようなところも踏まえての議論になると思っている。

(議員)

今年、子どもの意見表明権を保障するということで、こども・若者会議が開催されたが、その中で、若者の居場所をつくってほしいというグループ発表があった。市民会館や自習室のある青少年センターも廃止と

なるが、自家では集中して勉強できないという声もある。皆さんはどう考えているのか。

(高校生)

冬休みに青少年センターに行ったが、利用する人がすごく多かったという印象が残っている。みんな真面目に勉強していたので、なくなると不便になると思う。飲食店で勉強する人もいると思うが、迷惑がられたりすることもあるので、廃止するならば新たに自習室をつくってほしい。

(委員長)

自家以外で、勉強する人はどれくらいいるのか。

(高校生)

タブレット使って勉強する際には充電が必要となるため、充電スペースがあるカフェなどを利用している。

(高校生)

電車内や友達の家で勉強することもある。

(高校生)

塾で勉強し、分からないことあれば塾の先生に聞いている。

(高校生)

学校は平日でも 19 時半くらいまで自習できるし、残っている先生に質問もできるので、学校に残って勉強している。

(議員)

こども未来局と教育委員会が連携して、新設するかどうかは別として居場所を確保していきたいという方向性である。また、小学校区ごとに公民館があるが、公民館の図書室では、小・中学生が自習してもいいことになっている。

アクリエひめじのロビーを利用して勉強する学生もいるので若者の居場所確保は必要であると思う。

(委員長)

ほかに意見はあるか。

(議員)

今年、「住むほどに好きが深まる姫のまち」という姫路市のブランドメッセージが決まったが、姫路市の好きなところを教えてほしい。

(高校生)

学校の通学路でよく会うおばさんがいて、毎日 5 分程雑談している。都会だとそのような機会はないと

思うので、こういうところが姫路市のいいところだと思う。

(高校生)

毎朝登校の際に見かける掃除をしている人や姫路城の愛城会など、ボランティア活動を熱心に行っている人がいる。地元を大事にしているところがいいところだと思っている。

(高校生)

自分が住んでいる地域より姫路市のほうが祭りは盛んだ。にぎわいがあるところがいいと思う。

(高校生)

ごみ捨ての場所について、ベトナム語も併記されており、外国人に優しいところがいいと思う。

(高校生)

私は、姫路の文化がすごく好きだ。姫路城もたまに登りに行くことがある。歴史的なものや祭りの盛んなところにすごく魅力を感じている。

(高校生)

海外からの観光客が多いため、道を尋ねられるなど、日常生活において外国人と関わることもあることがすごいと思う。

(委員長)

皆さんから、姫路市のすごくいいところを聞かせてもらった。即効性のある少子化対策はないが、これからの世代の皆さんの考えを大事にしながら取り組んでいくことで、姫路市も先に進めていくことができると思う。皆さんにとって姫路市はいいところだと思ってもらえるよう私たちもしっかり頑張っていきたい。また、将来、姫路市から移住される人にとってもまた、姫路に戻ってきてもらえるようなまちづくり考えている。少し時間があるので、市議会議員について聞いてみたいことがあれば、質問を受けたい。

(高校生)

姫路市のどこが好きなのか。

(議員)

生まれも育ちも白浜なので、祭りが中心にあった。就職も、祭りの日は姫路へ帰ってくるができることを考え、面接でもそう伝えて就職した。地域文化が姫路の魅力だと思う。

(議員)

私は結婚してから、姫路に移住してきたが、生まれ

故郷も大好きである。姫路市のどこが好きかと問われたら、毎日、世界遺産姫路城が見られることであり、そのまちで暮らせるということは、素晴らしいことだと思う。

(委員長)

議員は、姫路のよさを皆さんに伝えながら取り組んでいることがある。皆さんも引き続き、姫路をもっと好きになってほしいと思う。そろそろ予定の時間となったので、これで意見交換を終了する。

**意見交換終了** 11時43分

**副委員長挨拶** 11時43分

**閉会** 11時48分